

市民との対話事業 **市長とふれあいトーク**

実施日時	平成 25 年 12 月 26 日 (19:00~20:00)		
実施場所	大井田コミュニティセンター	参加人数	17 人
参加対象	大井田地区振興会役員 大井田地区青年会 (大井田青年の会・南新田青年会・中原親和会・尾崎親若会・四日町新田 1、2、3 の会・四日町第 1 よいちの会・四日町第 2 わかいしょの会・四日町十七夜祭囃子方)		
懇談内容	<p>1. 発言者 大井田地区は東小・中条中・十日町中の学区を抱えているが、これらの学校の小中一貫教育のビジョンはあるのか。</p> <p>市長 各中学校区との調整になると思うが、今のところ下条のような一体校にすることは考えていない。大事なものは小・中学校の双方がお互いのことを考えるようになること。中身の一貫交流という形を目指していく。</p> <p>2. 発言者 市長の説明で雇用が 132 人増えたとあるが、これは今年 1 年の数字か。十日町市は働く場所が少ない。</p> <p>市長 平成 24 年までの 4 年間の数字である。就労先の確保は、十日町市にとって大きな課題であり、市も積極的に企業の事業拡張を支援している。また、求人と求職のミスマッチも多いことは事実。ものづくり企業は人材を欲しがっている。その現状を市民の皆様にお知らせしきれていないことは市の課題と捉えている。各企業の若者が頑張っている姿を市報などで発信していく。</p> <p>3. 発言者 特養施設で入所待ちの方が 500 人を超えると聞いたが、これに対する対策は考えているか。介護にあたる人材はいるのか。</p> <p>市長 特養等介護施設が増えることはありがたいことだが、一方で介護保険料が上がる可能性がある。その兼ね合いを見極めながら介護施設は増やしていく。それと同時に、入所待ちの方への支援策 (在宅介護手当の拡充など) を検討していく。この地域の一番の課題は、看護師などを育成すること。新十日町病院に看護師の専門学校を置けるよう、現在最大限努力している</p> <p>4. 発言者</p>		

火焰型土器の実物のナンバーワンがいつ展示されるか分かるようにしてもらいたい。また、レプリカの購入ができないか。販売している場合、どちらで購入できるのか。

市長

ナンバーワンの展示情報については対応したい。実物大のレプリカは全部で 10 個ほど作製したが、本物の劣化が進む恐れがあるので、これ以上は作れない。ミニサイズのレプリカは妻有焼陶芸センター、クロステンで販売している。

5. 発言者

仕事柄、市場に出入りすることが多いが、個人商店の元気がない。個人商店に対する支援策などはないものか。

市長

個人商店に支援というのはなかなか難しい。それより大事なのが人の流れをつくること。人の流れができれば自ずとそこにビジネスチャンスが生まれてくる。そのために市民文化ホールや公民館の建設し、そこに市民の皆さんが集まる仕掛けを作りたいと考えている。市の支援というのはそういうものをご理解いただきたい。新規出店、空き店舗の活用については、市からも支援をする。これは今までも行っているし、これからも継続していく。

6. 発言者

新しいブランドづくりも大事だが、十日町のコシヒカリという既存のブランドをどういうふうに売っていくか市の策が見えない。今後の方向性は。海外での販路開拓に対する支援策はないか。

市長

魚沼産コシヒカリというブランドだけで売っていくというのはもう厳しいと感じている。米作りの背景も見せていく売りだし方や他の産地との差別化いかに図るかが大事。また十日町は土づくりの施設（堆肥センター）がないのが課題。これを建設し、水と土からこだわったコシヒカリというアピールをしていきたいと考えている。

米に限らず日本の農産物は高く、海外での競争は厳しい。時代の流れに合わせて変えていくことも大事。しかし、棚田などの貴重な財産は守っていく。